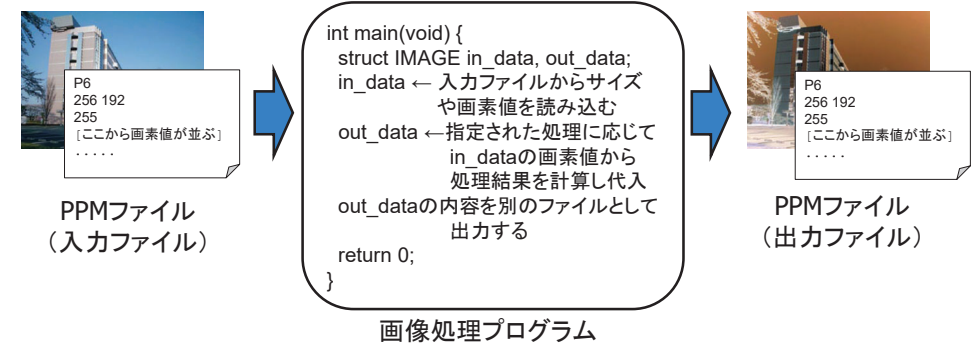


プログラム設計の指針

画像処理プログラムの全体像

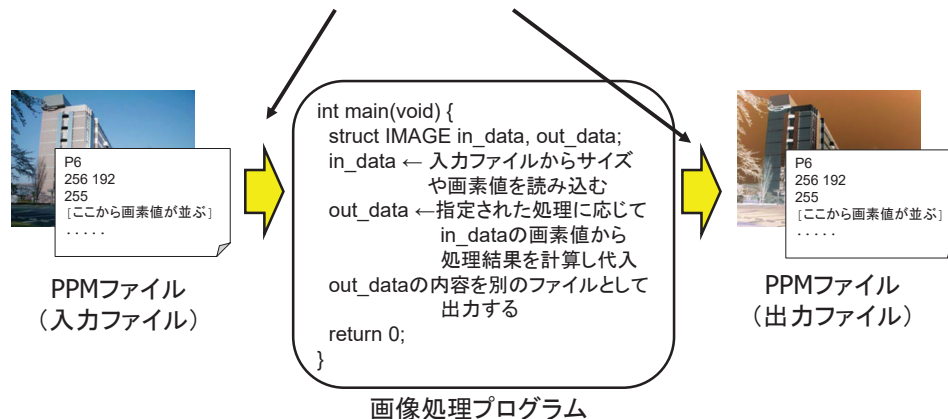
1. 入力ファイルからヘッダと画素値を読み込む
2. 画素値を処理に応じて適宜変更する
3. 変更した画像情報を別ファイルとして出力する



必要な知識①

■ ファイル操作

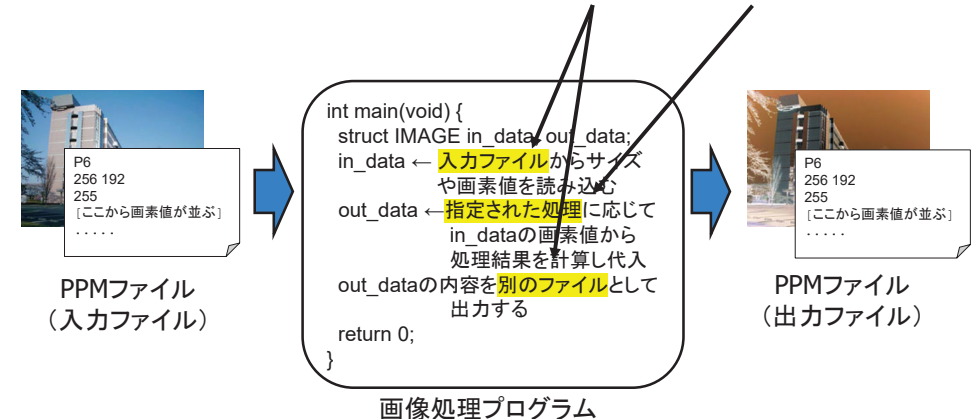
■ ファイルの読み込み, 書き込み



必要な知識②

■ コマンドライン引数

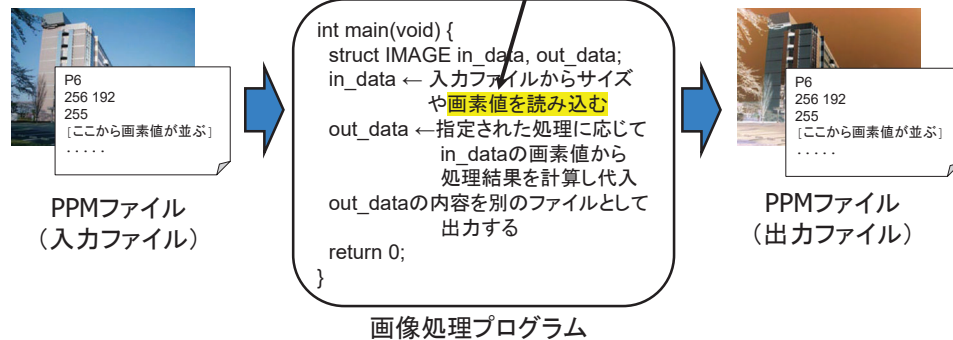
■ 画像処理をしたいユーザがファイル名や処理を指定



必要な知識③

■ ポインタ配列と動的確保

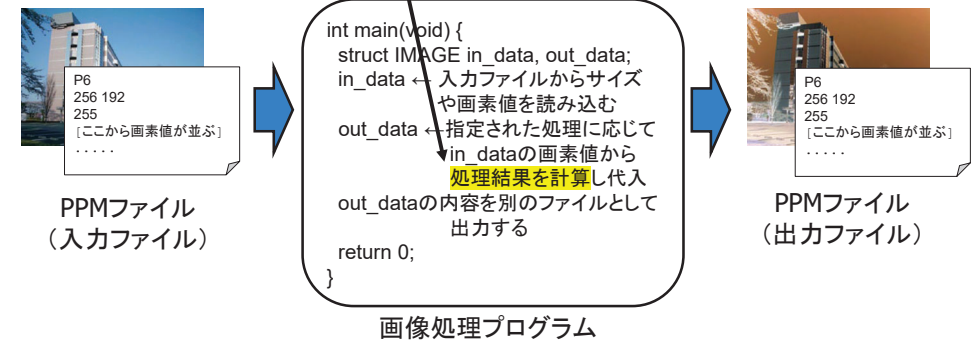
- 画素値を格納する配列の長さはファイル依存



必要な知識④

■ ビット演算

- 減色処理はビット演算を使うと楽



全体の流れ

- 1週目 (ファイル操作, コマンドライン引数)
 - 画像ファイルのヘッダ情報をテキストファイルに出力
- 2週目 (ファイル操作)
 - 画像ファイルの画素情報をバイナリファイルに出力
- 3週目 (ポインタ配列と動的確保)
 - 様々な画素数の画像ファイルの入出力に対応
- 4週目 (ビット演算)
 - 画像を減色または上下反転させて出力